

5-3

日本の介護現場で働く外国人介護士の適合性

～留学型からEPAにおける外国人介護職員を受け入れて～

外国人介護職員

職員雇用戦略

特別養護老人ホーム ケアポート板橋

発表者：主任 村上 隆宏	共同研究者：日本語学校
所在地：東京都板橋区舟渡3丁目4番8号	
TEL：03-3969-3101	E-mail：miyamae@fujikenikukai.or.jp
FAX：03-3969-3155	URL：http://www.fujikenikukai.or.jp/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	特別養護老人ホーム（入所100床・短期入所20床） デイサービス ヘルパーステーション ・ 居宅介護支援事業所 ・ 地域包括支援センター グループホーム
----------------------------	--

＜取り組んだ課題＞

現在、フィリピンやインドネシアとの経済連携協定 Economic Partnership Agreement（以下EPA）において、看護師候補者・介護福祉士候補者が来日し、国家試験合格に向けてそれぞれの病院・施設で研修をしているが、外国人を受け入れるにあたり、施設側の課題と、候補者本人の課題についてまとめたので報告する。

＜具体的な取り組み＞

不二健育会では、2007年11月～2009年3月までの1年半、EPAにおける外国人受入れの研究調査の一環（準備）として、フィリピンからの留学生2名を日本語学校と連携して受け入れた。学校に通いながら、法律で定められた範囲（資格外活動）でアルバイト。

この期間にお互い多くのことを学び平成20年度インドネシア人介護福祉士候補者についてはスムーズな受入れができ、続いては、21年度フィリピン人、21年度インドネシア人介護福祉士候補者の受入れに繋げている。

文化や職場環境、生活環境などについては異なることが多い中で、施設側の受入れ体制を構築し、国家試験合格に向けた様々な取り組みを行っている。

不二健育会の外国人受入れ

留学生2名（フィリピン）07年11月～09年3月

20年度EPAインドネシア1名

21年度EPAフィリピン1名

21年度EPAインドネシア2名

在日フィリピン人2名

＜活動の成果と評価＞

外国人介護福祉士候補者の受入れについて、職員には諸外国の介護事情や送り出し国の情報、やがて来る超高齢化社会における介護人材の不足について外国人労働力を今のうちから受け入れていく必要があることを、勉強会を重ね理解してもらった。

留学生受入れ前には、特に“利用者さんから受け入れてもらえるのか”を心配していたが、介護の現場においてフィリピン人・インドネシア人の暖かい性格は、利用者さんからの反応も良く、適正と判断している。

職場環境については、ひらがな、ローマ字標記や在日の職員によるメンタルフォロー、日本語学校や他受入れ施設との連携ができつつある。

＜今後の課題＞

将来的には、間違いなく諸外国の人たちに助けられる日がくるはずである。しかし、今の受入国である日本の制度では、各施設が率先して受け入れられるものではないと言える。外国人介護福祉士候補者の受入れ機関である我々が、この制度を良くしていけるように働きかけなければならないと考えている。

制度についての問題点

- ・候補者は人員基準に含める事ができない
- ・国家試験受験について、1回のチャンスしかないなど

＜参考資料＞（PPT）

国立社会保障・人口問題研究所より、
【人口ピラミッド推移】

【メモ欄】